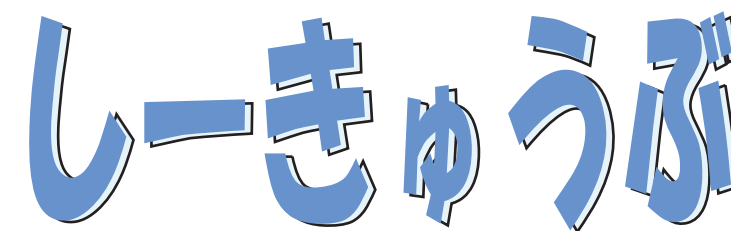


C³プロジェクトでは、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を設置し、皆さんと一緒に、行政や事業者との議論の場や、必要なリスク情報づくりを進めることにしています。4月から、応募していただいた皆さんと議論を重ねてきています。皆さんのご意見やご要望を実現してみませんか？参加はいつでも受け付けています！！



2003年 8月 第3号

東海村の環境と原子力安全について提言する会への参加 申し込み方法

参加申し込みチラシの裏面にあるハガキに必要事項をご記入の上、お申し込みください。

2004年3月31日まで受け付けています。

参加申し込みチラシは、C³プロジェクト事務局のほか、合同庁舎1階ロビー、駅、役場、核燃料サイクル開発機構（アトムワールド、リコッティ）、日本原子力研究所（原子力科学館）、日本原子力発電所（テラパーク）内に置いてあります。

事務所を開けている時間帯
◎10時～17時30分
○10時30分～17時30分
△12時30分～17時30分



8月の活動予定

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
提言する会 第4回会合	◎	△	○			
11	12	13	14	15	16	17
←				夏休み		
18	19	20	21	22	23	24
		→	10時30分～ 12時	10時30分～ 12時		
25	26	27	28	29	30	31
	◎	△	○			

予定は変更になる可能性がありますのでご了承ください。



原子力技術リスクC³プロジェクト事務局
〒319-1111 東海村舟石川821-52
東海村合同庁舎（1号館）2階
電話：029-287-1665
携帯：090-4674-0117
ホームページ：http://tokaic3.fc2web.com

提言する会の活動のご紹介

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」は、7月10日現在で参加者9名！4月から参加者全員での会合を重ねてきました。プロジェクトで実施した調査結果も踏まえて、住民の皆さんの気持ちを反映した具体的な活動計画を決めようと努力しています。

「提言する会」の運営の基本は参加者主体です。C³（シーキューブ）事務局は、会議の日程調整や進行、議事録作成のお手伝いに徹しています。9名の皆さんの意見が最初から一致することは少ないですが、時間をかけて話し合い、全員の知恵と経験を結び合わせようとしています。

会合はだいたい月1回開催しています。来月号のニューズレターでは、2～3つの活動計画を皆さんにお伝えできればと思っています。関心のある方は事務局までお問い合わせください。（事務局の連絡先は裏面にあります。）

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」メンバー紹介 (50音順・7月10日現在)

赤石 準
白方



今は合併をくり返した結果、長野市の一部となったが、千曲川ほとりの寒村の生まれ。初めて東海村に来たのは昭和31年夏前で、駅は「石神駅」でした。昭和32年秋に東海村の住民になりました。原研では放射線安全の部門で定年までを過ごしました。趣味はテニス。老若男女、国籍を問わず、楽しんでいます。

池田 誠仁
船場



再処理工場爆発炎上事故と、JCO臨界事故の経験を生かし、原子力安全について、行政－住民－事業者の距離を縮め、一緒になって、安全対策やリスクマネジメントについて学び、情報・意見・信頼・関係を作り、住民が原子力施設の安全対策に注目して、原子力事故が起きたときの防災対策等自分たちで判断して行動が出来る様な勉強会等も行い、原子力安全対策モデル自治体を目指していきたいです。

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」メンバー紹介（続）

小宮山 豊村松



日本能率協会・経営コンサルタント
東海村に30年近く住んでいて、原子力や安全性に関心が薄かったことを多いに反省しています。「提言する会」に参加できるこの機会に原子力の安全性を勉強し、住民が原子力の被害にかからないための活動を手伝っていきたいと考えております。

佐藤 稔舟石川



東海村は住みやすいところです。しかし、JCO事故の室内退避の衝撃は忘れられません。事故の教訓が村民や行政にどのように生かされているのでしょうか。そのことを皆さんと話し合いたくて、この会議に参加しました。

杉 暉夫村松



1958年、学校を出て東海村の原研に就職しました。最初の職場がJRR-1でした。すでに炉は完成して居り、最初は何も判りませんでした。以来、1994年まで原研に居り、主として研修所の仕事に従事して定年を迎えました。それ以後も、原子力からは離れられず今日に至って降ります。今年の4月からは、中間貯蔵施設の立地の仕事で、非常勤で時折むつ市へ出掛けています。退職してから、初めて原子力の全体像がおぼろげに見えてきました。

山口 歓一須和間



原子力関係に知識はないが、原子力問題には関心あり。東海村に住んでいる一般庶民の立場で発言してゆく。私の立場はこんなところだろうと思う。在村30年、過去の経歴としては区長職、芸術祭実行委員長、書道連盟理事長など。発言権は少々あり？ 現在は書く事より、考えたり調べたりするのが好きな書道家です。でも、これら全部原子力関連との接点がありません。私より適任の方、どうぞご発言を、そんな心境です。

佐藤 隆雄白方



8年前阪神、淡路地方を巨大地震が襲った。大変な数の犠牲者が出、都市機能も長期間麻痺した。4年前にはJCO事故が発生した。これらの危機に際して国、地方自治体は何ができたか、何が不足したか、市民は何が頼りになるか、いろいろな反省が行われた。この種の潜在リスクに対して今回のCキューブの活動は何か期待できそうである。過去日立製作所で原子力と環境ビジネスの一端を担当させて頂いた私も、何かのお役に立てるかも知れないと思い、参加させていただくことにした。

清水 朋子白方



子供が育ち上った所で、2年前から社会に出ています。小学校での先生のお手伝いからはじまり、今は地域のコミュニティセンターでパート職員をしています。市民参加の活動としては、子育て中のPTA、行政のハーモニー東海、一応英文学を学んだ身として国際交流と幸せな毎日を過ごしています。けれどもこの幸せを享受できるのは、あらゆるRiskから安全であるかぎりです。上手に人生を暮らす為に、一緒に活動したいと思います。

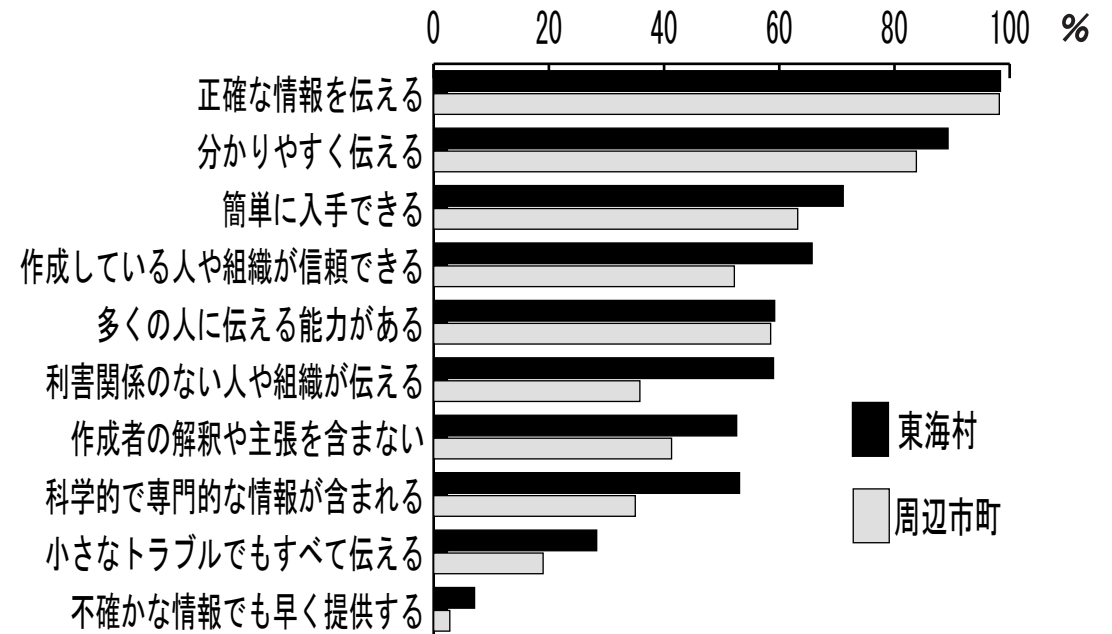
並木慎一郎村松



「東海村の環境と原子力安全について提言する会」に参加する機会を得ましたので、この機会に行政と住民の意志疎通のパイプ役になり歯車がうまくかみ合うような仕掛けづくりを提案していきます。現状行政と住民との意識感覚はますます乖離し、一方通行の行政は住民に「言ってもしょうがない」というあきらめの気持ちを助長させております。但し両者とも良くしようとするためにすばらしいアイディアで活動しております。その溝を埋めるのが本会の課題だと信じております。

調査結果のご紹介

リスク情報を伝える上で重視すべきこと（複数回答）



リスクに関する情報提供では、正確さやわかりやすさとともに、情報を伝える側の信頼が重視されていることがわかりました。特に、東海村では情報の信頼性が重視されています。

リスクとは

皆さんは、リスクと聞いてどんなことを思い浮かべますか？ 「危険」とか「事故」とか「被害」と答える方が多いかもしれません。実は、リスクの定義は学問分野によって少しずつ異なっています。例えば、地震リスクとは、地震が起きた時の被害の程度を示しています。しかし、一般的には次のように定義されています。

生命の安全や健康、資産や環境に、危険や障害など「望ましくない事象」を発生させる確率、あるいは期待損失

この定義に従えば、原子力発電所で事故が発生する確率は非常に小さいのですが、事故が起きた時の「望ましくない」出来事は非常に重大であり、リスクはそれほど小さいものではありません。

ところで、リスクは専門家しか理解できないものでしょうか？ 実は、私たちは日常生活の中で頻繁に「リスクを考えて行動」しています。例えば、女性は人気のない夜道を避けるようにするでしょう。これは、夜道を一人で歩くことが「望ましくない」ことを発生させやすいと考えているからです。これは、夜道を一人で歩くことが「望ましくない」ことを発生させやすいと考えているからです。このように、リスクは私たちの日常生活の中のほとんどあらゆることに関わっており、私たちは、複数のリスクを比較したり、リスクと利益を比較したりしながら生活しています。

また、最近では専門家だけでリスクを評価することが難しくなっています。例えば、原子力事故のリスクは事故によってでた放射性物質による影響を検討していますが、風評被害や精神的な影響は被害の中に含めなくてもよいのでしょうか？ もし含めるとすると、どうやって発生確率を計算すればよいのでしょうか？

誰のどんなリスクを考えるべきか。不確実性をどう考えるか。これらのリスクにどう対処していくか。C³プロジェクトは、これらの問題について議論する場を設けることを目的としています。